



07 歌うことによって、活動の幅が広がっていた。

—では自分たちで歌うようになり、アーティストとしてどのような活動をされていたのですか？

TATSU:やっぱりダンス一本でやっていた時よりいろんなところに行くようになったというか、音楽イベントもそうですけど神奈川の中学校に公演をしに行ったり……。

SHINGO:手話のイベントはもちろん、人権問題や飲酒運転撲滅活動のイベントにも呼ばれるようになりましたね。

TATSU:あと変わったものが、ローマ教皇が来日して東京ドームで5

万人が集まったミサに出演したことです。全国から集まったシスターたちに僕らが作った手話パフォーマンスの振付を憶えてもらってローマ教皇さまに見てもらおう、という感じのものでした。

—なるほど、実際のろう者の方々の前でパフォーマンスすることもあったんですね。

TATSU:そうですね、耳の聞こえない方たちにパフォーマンスをすることは次第が増えていきましたね。でも、僕ら逃げていた時があったんです。

10 世間から叩かれてもいいから、もっと知ってもらいたい。

—素晴らしいことをやられていると思いますが、ご自身としてはそういう葛藤などもあったんですね……。

TATSU:それでも、結成10年を迎えた時に、それこそ手話を必要とされている方たちとたくさん関わりを持ってコミュニケーションもしてきたし、自分もいろんなことをやってきたという自負もあって。

SHINGO:それで、もっと「こういう世界があるんだよ」ということをたくさんの人に知ってもらいたいと思って、世間から叩かれてもいいから、実話を元にしたMVを作ることにしたんです。

TATSU:それが「僕が君の耳になる」です。僕たちの周りの人の実話を元にしてドラマ仕立てのMVにして、この楽曲は最初からMVありきで作った曲なんです。

—ドラマの内容も感動的でしたし、叩かれるどころが大絶賛なMVになりましたね！

TATSU:出演していただいた方たちも本当に素晴らしくて、特に主演の足立梨花さんはもともと初舞台が2時間半全編手話の舞台の主演をやられていたのもあってオフアーしたので、まさにこれ以上ないキャスティングができたと思っています。

11 レジェンド、が地元に来てくれることが嬉しい！

—ところで11月に出演される舞台公演『FINAL LEGEND』では「僕が君の耳になる」のコラボ作品が披露されるんですよね？

TATSU:僕らが歌いつつ、ダンサーのみなさんが周りでパフォーマンスをしていただきます！ さらに新しい試みとして、曲のサビの部分の手話をぜひお客さんにもやって欲しいと思いますので、ぜひ解説動画（※枠外「News.02」参照）を見て、少しでも手話を憶えて観に来ていただけたら嬉しいです！

—では最後に公演の出演に対する意気込みをお願いします！

TATSU:こういったダンスのイベ

ントには普段あまり呼んでいただけるともないので緊張しますね。ちょっといつも以上に気合いを入れて、来ていただいたお客さまに楽しんでもらえるように頑張ります！

SHINGO:「レジェンド」という大会は昔から知っててよく見てたので、その公演版の『FINAL LEGEND』が地元で開催されるというのがすごく嬉しいです！ 観に来てくれたお客さんも湘南のダンスを知ってもらえるきっかけになると思うし、僕らのパフォーマンスを見て、「あ、手話とダンスいいじゃん！ カッコいいじゃん！」って少しでも感じてもらえるように頑張ります！



Information

HANDSIGNの特別コラボ作品に出演できるチャンス！



この秋、HANDSIGNが振付師に縣正利を迎えた特別コラボ作品を『FINAL LEGEND』で披露！そこにダンス経験不問のサポートキャストを幅広く募集！本公演のみの特別なチャンス！



振付師 縣正利

10/27(木)まで動画審査応募受付中！詳細は右記エントリーページまで▶



08 手話のパフォーマンスをやりながら、手話を話せなかった自分。

—「逃げていた」とはどういうことでしょうか？

TATSU:よくイベントが終わってお客さんをお見送りするのってあるじゃないですか？それで手話関連のイベントで、耳の聞こえない方たちからすごく嬉しそうに手話で話しかけられたんです。

SHINGO:でも、その当時の僕らは日常会話の手話ができるほどでもなかったし、何を言っているのかわからなくて。だんだんそれが嫌になってしまって、逃げるようにお見送りを避けていったんです。

—確かに、お客さんからすれば手話で話しても通じると思いますよね……。

TATSU:でもそれは良くないと思って、1個だけ手話を憶えたんです。「すみません」の手話を。それで、次のイベントのお見送りの時にお客さんから手話で話しかけられた時に「すみません、手話できません」って手話をやったんですよ。でもなぜかすごく喜ばれて。なんで喜ばれたかと思ったら、手話を間違えて「僕は手話のプロです」ってやってたんですよ（笑）。

09 ずっと心に残っていた「手話を道具にしていませんか？」

—全然真逆なことを伝えてしまっていたわけですね（笑）。

TATSU:「すみません」と「プロ」の手話って似てるんですよ（笑）。ただそれから、出来る範囲でもコミュニケーションをとることが大事なんだと実感して、手話サークルに通うようになったり手話の資格を取って、積極的に手話を憶えていきましたね。

—一般の人でも、お2人の影響で手話を憶えるようになったという人は多いんじゃないですか？

TATSU:多いと思います。「僕が

君の耳になる」のMVを見て手話に興味を持ちました、という連絡がよく来ますよ。たぶん1万人以上はいるんじゃないかな？

—あのMVは感動しましたし再生回数もすごいですよね！その制作にはどのようなきっかけがあったのですか？

TATSU:実話を元にした物語を作りたいという想いは前からあったんですけど、ためらいもあったんです。結構昔に「手話を道具にしてませんか？」とインタビューされたこともあって。

HANDSIGN News.01



『FINAL LEGEND』で代表作の特別コラボナンバーが披露！

HANDSIGNが出演決定、11月に湘南で開催される『FINAL LEGEND DISSIDIA』。ここでは代表作「僕が君の耳になる」が彼らの生歌で大人数群舞ダンス作品として披露される！

HANDSIGN News.02



「僕が君の耳になる」のサビを手話で憶えよう！



「僕が君の耳になる」の手話をフル超スローレクチャー

『FINAL LEGEND』では曲のサビを会場全体で踊る演出を予定！来場予定の人は当日のレクチャーの前に、そうでない人もこの機会にぜひ手話の魅力を感じてみよう！

